

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	老人医療費給付事業		コード	担当課係	保険医療
			02-01-04-16	担当者	吉田 佳奈子
事業実施期間			電話	64-1819	
総合計画 事業(政策)体系	大項目	健康でやさしさあふれるまちづくり			
	中項目	やさしさあふれるまちづくり			
	小項目	高齢者福祉			
	施策	地域社会づくりの支援			

事業について	
目的	老人の適切な医療の確保を図り、医療費支給の措置を講じることで、老人の福祉増進に資する
対象(誰のために)	68,69歳の低所得世帯に属する者と65歳~69歳の寝たきり・一人暮らし老人(旧日生町・旧吉永町が単独で行っていた町老人は60歳~69歳までで障害者手帳(6級以上)を持つ者)
内容	自己負担のうち2割を助成し、本人は1割負担とする

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など(単位)	回数など(単位)	回数など(単位)
医療費支給件数	12,087 件		
医療費支給額	44,979,215 円		
受給者数	676 人		

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	46,258	国庫補助金等	24,428	直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	1,775	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	48,033	市債		合計	0	市債	

必要人員	0.35	人
結果指標名	医療費支給件数	
結果指標量	12,087	
単位	件	
対前年比	—	
事業費	48,033,000	円
単当たりコスト①	3,974	円

結果指標名	受給者数	
結果指標量	708	
単位	人	
対前年比	—	
事業費	48,033,000	円
単当たりコスト②	67,843	円

事業の成果		
成果指標名	年間一人当たり支給件数	式又は説明
		1年間で医療費の支給を受けた老人の一人当たり回数
成果指標量	17.07	
対前年比	—	0.00%
到達目標値	15回	到達目標年度
		毎年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	平成18年度から国の医療制度改革が始まることを受けて、岡山県老人医療の対象の見直しも行われることは必至
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	市民ニーズの妥当性	現物給付及び償還給付の2通りの給付方法によって市民の利便性が図られ、現物給付により事務経費を最小限にしている。
	市の関与の妥当性	
	コストの効率化	
有効性の評価	市民ニーズの妥当性	2割ないし1割と自己負担が軽減されていることで医療にかかりやすい状態となっている。
	市民の関与の妥当性	
	職場の効率化	
市民参画度	目的達成度	
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価		評価区分
コメント	国の老人医療や前期高齢者等の医療制度改革が進む中、更に税制改正による対象者の減少をうけ、県の老人医療制度の見直し・縮小は避けられないと思われる。	<A~E> C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	7,800件	結果指標量②	650人
目標値	結果指標量	12回	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	対象者の見直し	平成18年~	高齢者の増加で膨れ上がる医療費の更なる抑制

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。